

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ギターリストセオリー		授業形態 / 必・選	講義		必修
	学則上表記	ギターリストセオリー		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	長年にわたり、ギター演奏を中心とした音楽制作の現場で活動。 レコーディングやアーティストサポートをはじめ、楽曲提供、劇伴制作、作編曲、楽曲プログラミングなど幅広く手がける。 また、教則本の執筆やトレーナーとしての指導など、教育分野にも携わり、活動領域は多岐にわたる。					
授業概要						
一社会人として、ギターリストとしての音楽業界知識を身に着ける講座。音楽家としての楽譜の大切さ、プロフェッショナルが揃える機材の解説や意識している事などを学ぶ。また、純粋に音楽を楽しむ為の方法論やメンタリティの改善の為のカウンセリング等も含む。						
到達目標						
音楽を仕事にしていく為の方法を個々に考え、将来的な自分の「理想の仕事」の為に音楽業界の仕組みや知識を身に着け、自分がプロギタリスト、ミュージシャン、アーティストとして生計を立てていく為の方法を考える。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	プロギタリストやプロミュージシャンが揃えている現代の機材の解説 ギターの楽しさの醍醐味である「アンプ」や「エフェクター」の知識					
【前期】 5～8回目	「音楽と仕事」「夢と現実」好きな事で生計を立てる事の考察 音楽家が大事にすべき「譜面」の読み方、「コード」「楽典」「リズム記号」「調号」の理解					
【前期】 9～12回目	プライベートスタジオの構築について エレクトリックギターのシールドケーブル、電源ケーブル等のケーブル基礎知識					
【前期】 13～16回目	イベントライブ「ギターパフォーマンスクリニック」の必要書類の知識 前期試験					
【後期】 17～20回目	ミュージシャン、アーティストが意識するブラックフライデーへ向けての音源の知識					
【後期】 21～24回目	ギターの楽しさの醍醐味である「真空管」の知識(アンプ・エフェクター応用)					
【後期】 25～29回目	ギターリストの個性を活かす「ピック」についての考察 音楽業界知識講座					
【後期】 30～34回目	自分の音楽を世界に配信し生計を立てるシミュレーション講座 後期試験					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽芸能スタッフ科

授業科目名	ギターフィジカルトレーニング		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ギターフィジカルトレーニング		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	所属校主催のギタリストコンテストでの入賞や、音楽番組への出演経験を有する。現在はバンド活動を中心に、生演奏でのパフォーマンス、楽曲提供、サポート演奏など幅広く音楽活動に従事している。					
授業概要						
楽曲を演奏する際に必要な基礎ギター能力を磨く、ギターを弾く際の運指やピッキングフォームにスポットをあて、ギターに必要な毎日使えるトレーニング集をクリック(メトロノーム)を使用しながら幅広いトレーニングを行う。						
到達目標						
プロフェッショナルが意識している正しい運指、アマチュアにありがちな適当なフレージングやフォーム等の矯正、またピッキングトレーニングができるようになった上で音感、リズム感、表現力(アーティキュレーション等)の向上と求めた演奏の実現						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	「フィジカルトレーニング&オルタナイトピッキング&ピッキングフォーム」 ・クロマチックスケール(半音進行スケール)とオルタナイトの基礎力向上。・正しいピッキングフォームの矯正。・クリック(メトロノーム)の正しい使い方/裏クリック体感法。・チューニングの重要性、正しいチューニング法。・8ビート、3連符(シャッフルリズム)、16ビートそれぞれの体感トレーニング。					
【前期】 5～8回目	「フィジカルトレーニング&チョーキング(ベンディング)」 ・ペンタトニックスケール各種(メジャー、マイナー)を使い、1スケールに7つのダイアトニックとは違う指運のトレーニング ・チョーキングの概念や左手のネックの握り方講座⇒半音/全音/1音半/2音それぞれの左手の耐久力アップ向上					
【前期】 9～12回目	「フィジカルトレーニング&アーティキュレーションⅠ」 ・メジャースケール(イオニアンモード)を使った明るいスケールの音感を養う。・ギタリストの苦手克服(小指の使い方、体を使ったリズムトレーニング等)。・アーティキュレーション(ハンマリングやスライド、グリッサンド)を学び、左手の表現力向上を図る					
【前期】 13～16回目	「フィジカルトレーニング&アーティキュレーションⅡ」 ・ナチュラルマイナースケール(エオリアンモード)を使いメジャースケールとの違いや転調を行い、メジャースケール(イオニアンモード)と並行してメカニカルなトレーニングを行う。・アーティキュレーション(ハンマリングやスライド、グリッサンド)を学び、左手の表現力向上を図る。・上記1回～15回目の応用&復習					
【後期】 17～20回目	「クロマチックスケールの応用&ミュート奏法&BPM(テンポ)」 ・キーの変更やリズムを変えて更に難解なフレージングの練習。・BPM(テンポ)の重要性、自分に合ったテンポ感や苦手なテンポなどの考察含む。・ミュートやアクセント等を考え、より音楽的なフレージングを学ぶ					
【後期】 21～24回目	「メジャースケールの応用&ミュート奏法&BPM(テンポ)」 ・キーの変更やリズムを変えて更に難解なフレージングの練習。・BPM(テンポ)の重要性、自分に合ったテンポ感や苦手なテンポなどの考察含む。・ミュートやアクセント等を考え、より音楽的なフレージングを学ぶ					
【後期】 25～29回目	「マイナースケールの応用&ミュート奏法&BPM(テンポ)」 ・キーの変更やリズムを変えて更に難解なフレージングの練習。・BPM(テンポ)の重要性、自分に合ったテンポ感や苦手なテンポなどの考察含む。・ミュートやアクセント等を考え、より音楽的なフレージングを学ぶ					
【後期】 30～34回目	各スケール(ペンタトニック/イオニアン/エオリアン/クロマチック)の総復習 ・アーティキュレーションやピッキングフォーム、チューニングやテンポの重要性の再認識 ・上記1回～29回で学んだすべての総復習					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	音楽理論Ⅰ		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	音楽理論Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	ギター演奏を中心に多数のレコーディングやアーティストサポート、アーティストへの楽曲提供、 劇伴、作編曲、楽曲プログラミング、教則本の執筆やトレーナーなど活動は、多岐に渡る。				
授業概要					
音楽に関する基礎的な音楽理論(ベーシックセオリー)を学び音楽に対する基礎的な知識を身に付け、 楽曲制作や演奏する楽曲の理解や実演奏へのフィードバックさせる為の授業内容になっています。					
到達目標					
アーティスト、演奏家にとって大事な共通言語とされる 基礎的な音楽理論の理解を深め自己の演奏に反映させ修得出来る事を目指す。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	基礎知識(1) ・音楽記号・拍子記号・音名・音符・休符・音の高さ ・調号、Keyに付いて、#系とb系(1)・Tone Interval(1)1度、3度、5度、7度音程(完全、長、短、減)				
【前期】 6～10回目	基礎知識(2) ・調号、Keyに付いて、#系とb系(2)・Tone Interval(2)1度、3度、5度、7度音程(完全、長、短、減) ・Degree(度数)表記(1)Ⅰ-Ⅱ-Ⅲ-Ⅳ-V-VⅥ-VⅦ・サークルオブフィフス(五度圏)・コードネームの表記方法(1)				
【前期】 11～14回目	基礎知識(3) ・調号、Keyに付いて、#系b系(3)・Tone Interval(3)1度、2度、3度、4度、5度、6度、7度音程(完全、長、短、減) ・Degree(度数)表記(2)Ⅰ-Ⅱ-Ⅲ-Ⅳ-V-VⅥ-VⅦ・Major Scale上に出来る三声、四声と音・コードネームの表記方法(2)				
【前期】 15～17回目	Diminished(減5、減7)音程、Augment(増5)音程から出来る和声とは、 / Chord FunctionからDominant Motion / Secondary Dominant ・Diminished Chord、Augment Triad Chord・ダブルフラット、ダブルシャープ ・Chord Function(1)・Dominant Motion(1)・導音、トライトーンとは、何か・Secondary Dominant(1)二次的なDominantとは、				
【後期】 18～23回目	ケーデンスに付いて、 ・ケーデンスのパターン Tonic Sub Dominat Dominantの進行パターン ・Dominant Motion(2)・Secondary Dominant(2) Secondary Dominantを使ってみる				
【後期】 24～27回目	転調のパターン / コードプログレッション ・平行調、同主調、近親調、遠隔調・各調へのコードプログレッションなど ・Dominant Motion(3)・Secondary Dominant(3)				
【後期】 28～33回目	[Logicの使い方応用 3] ミックスでよく使われるイコライザやコンプレッサーの基礎知識や使い方を学習し、 自作曲のクオリティをあげるような学習。				
【後期】 34～35回目	Tonic minor Scaleとは(2) ・Natural minor、Harmonic minor、Melodic minor Scale上に構築されるダイアトニックコードとDegree(度数) ・Natural、Harmonic、Melodic上に構築されるダイアトニックコードダイアトニックコードとDegree(度数) / コードプログレッション				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ギターベーシックⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ギターベーシックⅠ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	様々なアーティストのサポート・ギタリストとして活動。 その他、ギタートレーナー、レコーディング、楽曲制作、編曲、音楽専門学校講師など、活動は多岐に渡る。					
授業概要						
ギターを弾く上で基礎的な部分の学習。「ギターリストに必要な理論」をメインに「指板上の音の覚え方」や「音感やリズム感の向上」、「チューニングの重要性」や「譜面の読み方や学習方法」音楽、ギター未経験者からのスタートでも段階を踏んで上達していけるプログラム。						
到達目標						
ギターの基礎的な演奏技術や練習方法の習得、プロの現場で使える音楽業界の知識、譜面の読み方や音楽理論の重要性、音楽専門学校ギター専攻として必要な音楽知識の学習						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	「指板上の音」の学習、コードの概念、チューニングや譜面の重要性 ・6弦/5弦/4弦の指板上の音を覚える方法。・オープンコードの成り立ちやセーハコードへの移行方法。・3和音(トライアド)の学習。・チューニングの重要性、アーティスト・ミュージシャンから見た譜面の重要性。					
【前期】 5～8回目	4和音(オープンコード&セーハコード)の学習&各スケール練習方法 ・3和音(トライアド)からの応用、4和音の理解と学習。・メジャースケール key=C(5position)の習得 ・ナチュラルマイナースケール key=Am(5position)の習得					
【前期】 9～12回目	楽譜から読み取るリズム譜(スラッシュ記号)の演奏法 ・3和音を用いてリズム譜を演奏する技術・4和音を用いてリズム譜を演奏する技術(3和音含む)					
【前期】 13～16回目 (前期試験)	楽譜から読み取るリズム譜(スラッシュ記号)の演奏法 ・コード進行表 & リズム譜を同時に理解し演奏する方法 前期試験					
【後期】 17～21回目	調号(key)を理解した演奏の習得 ・前期で習得したメジャースケール、マイナースケールを用いて、色々なkeyでスケールを演奏・ダイアトニックコードの理解 ・メジャースケール Anykey=C(5position)の習得・ナチュラルマイナースケール Anykey=Am(5position)の習得					
【後期】 22～25回目	業界標準のスコアの読み方を習得 ・マスター譜面から、必要な情報を読み取り演奏できるようにする。(調号、楽典含む) ・現場に必要な音符読みトレーニング					
【後期】 26～30回目	マイナーのダイアトニック・コードにおけるファンクションの理解と習得 ・ナチュラルマイナー(エオリアンモード)の理解と習得・ハーモニックマイナーの理解と習得・メロディックマイナーの理解と習得※各スケールの代表的な使い方のレクチャー					
【後期】 31～35回目 (後期試験)	指板上の音、コード(3和音&4和音)、スケールの全把握と進級時に今後必要な知識の整理 ・ヴォーシングに活用できる指板上の音の把握・コードの概念、応用法・2年次のダイアトニックコードの活用について、音楽業界へのアプローチアドバイス・後期試験					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アンサンブルⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	アンサンブルⅠ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	70回(140単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース、ヴォーカルコース シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	ソロプロジェクトとして作曲・レコーディング・マスタリングなどを自身で手がける。ライブ活動を並行しつつ動画や業界の知識を配信等の活動も行っている。					
授業概要						
コミュニケーションを第一に既成曲を題材に、互いに周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバル＝ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。						
到達目標						
合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。						
授業計画・内容						
【前期】 1～30回目	アンサンブルとは何か 課題曲①～④ アンサンブルフェスティバルへ向けて					
31～32回目	アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。					
【前期】 33～34回目	半期のまとめ ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。					
【後期】 35～66回目	アンサンブルとは何か 課題曲①～④ アンサンブルフェスティバルへ向けて					
【後期】 67～68回目	アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。					
【後期】 69～70回目	半期のまとめ ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ギターパフォーマンスⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ギターパフォーマンスⅠ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	メジャーデビュー経験あり。現在はゲームコンテンツなどへの楽曲提供・レコーディング、様々なアーティストへのライブサポート・ギターレコーディングなどで活躍中。					
授業概要						
発表会に向けてライブパフォーマンスに特化した実技を行います。リズム、ソロ、サウンドメイキング、ステージでの立ち振る舞い、衣装や自己プロデュースにおける楽曲決めや集中力の使い方をブラッシュアップ。						
到達目標						
校内のみならず、ライブハウスやイベントにて高い水準のパフォーマンスが可能な実力の習得。 自己プロデュースによる「得意・不得意」の理解、苦手を得意に変え、精神と技量共にギターリストとしてのポテンシャルの向上を図る。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	個人の前期での目標設定 ・演奏楽曲決めやパフォーマンスに必要な要素の学習・客観視されたチューニングの重要性、クリックに合わせた練習の必要性・過去に行われたギター授業内発表会にて注意、学習すべきポイントの整理。(服装、音色、音質、セッティングの速さ等、動画視聴)					
【前期】 5～8回目	楽曲に必要な各種スケールの練習 ・発表会で使う楽曲のメジャースケール、マイナースケール全ポジションの理解、各ブロック毎に弾く練習。リズム、コードストローク練習・楽曲にでる特殊なコードへの対策(ダイアトニック外のコード等)					
【前期】 9～12回目	授業内発表会の演奏楽曲決め ・自己分析から曲決め、ジャンル、テンポ、演奏スタイル、使用アンプを含むを決定する。 ・エフェクター使い方や種類を理解して、自身の楽曲を更に彩らせる為の研究。					
【前期】 13～16回目 (前期試験)	楽曲に必要な主要スケールと実際のイベントを想定した緊張感の中で演奏する。 ・実際に動画を録り、「自分を客観視する力」を養う・演奏楽曲に使われるメジャー＆マイナーペンタトニックスケール全ポジションの理解(反復)・自身のギターパフォーマンスにて演奏する曲の披露、講師から学生へのアドバイス等					
【後期】 17～21回目	自身で選んだ楽曲の分析、そこから見える自己プロデュース ・授業内発表会に向けての自身の楽曲のポイント部分、コード進行とソロ、衣装やステージパフォーマンスの確認、ブラッシュアップ。・講師から学生へのイベント前最後アドバイス等					
【後期】 22～25回目	イベントの反省/過去のヒットソングを分析 ・発表会の反省会や今後への課題、見直し					
【後期】 26～30回目	ステージパフォーマンスにおいての見せ方以外に、曲での見せ方聞かせ方の理解(曲の際立つ部分等、理由や理論を混ぜて解析) ・音源に合わせてコードの習得、インプロヴァイズ(アドリブ)の練習。					
【後期】 31～35回目 (後期試験)	授業内にて実践発表と2年生の発表会(＋コンテスト)への対策の開始 ・実際に自身の楽曲に合わせて授業で演奏し、それを動画に撮影して全員で改善点や良い点をそれぞれ探しライブに向けてのクオリティアップ。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	DAW I		授業形態 / 必・選	講義		必修
	学則上表記	DAW I		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース ・ギターヴォーカルコース・ヴォーカルコース ・ダンスヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。また楽曲の作編曲。MIX、MASTERINGまで自身で行う。					
授業概要						
音楽制作ソフト(DAW)でのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。						
到達目標						
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるように)なる知識、実践方法を学ぶ。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	PCの操作方法の指導、音楽制作ソフト(DAW)の操作方法の指導 ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法					
【前期】 6～10回目	各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導 ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解					
【前期】 11～15回目	ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解 ・各楽器を理解し、4小節(16小節+α)の課題曲の作成					
【前期】 16～17回目	「前期試験対策」 ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習					
【後期】 18～27回目	各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成 ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ					
【後期】 28～32回目	ツミックスのバウンス作業 ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)					
【後期】 33～35回目	「後期試験対策」 ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ギターアナライズ		授業形態 / 必・選	実習		必修	
	学則上表記	ギターアナライズ		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置コース	ギターコース				教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	長年にわたり、ギター演奏を中心とした音楽制作の現場で活動。 レコーディングやアーティストサポートをはじめ、楽曲提供、劇伴制作、作編曲、楽曲プログラミングなど幅広く手がける。 また、教則本の執筆やトレーナーとしての指導など、教育分野にも携わり、活動領域は多岐にわたる。						
授業概要							
実際に演奏をする際にスコアを見て何をどのように解釈して演奏する方が良いのか、 楽曲構造(Keyやコード)がどうなっているのか、適合するスケールは、何が弾けるのかを考察解析しながら授業を進めます							
到達目標							
実際にスコアを見てその楽曲のテンポやFeel、Key、スケール、コード等は何か、 転調はしているのか？楽曲構成は、どうなっているのかを把握出来て弾ける事を目指します							
授業計画・内容							
【前期】 1～4回目	楽曲テンポや構造を知る ・拍子記号、音楽記号・音符、休符・楽曲構成について、 ・Keyとは、何か・サークルオブフィフス・Scaleに付いて、コードとは、その表記されている意味とは						
【前期】 5～8回目	Degree(度数)表記への理解 ・Degree表記の理解・Scale上に出来る和音(コード) ・コードネーム表記でのプログレッション・Degree表記でのコードプログレッション						
【前期】 9～12回目	Tone Intervalがdiminishedとaugmentを含むコード(Harmonic minorとWhaetone Scaleについて) ・diminished、augmentのIntervalを含むコードとそのコードを使用したコードプログレッション ・アナライズ・コードアルベジオ・アドリブ(1) Major、minorのPentatonic Scale						
【前期】 13～16回目 (前期試験)	コード進行における機能 ・Chord Function(1) Tonic Sub Dominant Dominant ケーデンスとは何か ・Dominant Motion・Secondary Dominant・コードプログレッション・アドリブ(2) Major Scale、minor Scale、Pentatonic						
【後期】 17～21回目	クリシエやペダルと呼ばれる進行。同じ楽曲での転調パターンについて・Chord Functionの復習 ・クリシエとペダルの理解と進行パターン。 ・転調のパターン、平行調、同主調、近親調、遠隔調・コードプログレッション・アドリブ(3) Major Scale、minor Scale、Pentatonic						
【後期】 22～25回目	Tonic minor Scale上に構成されるコード(1) Natural minor、Harmonic minor、Melodic minor ・Tonic minorのDegree、Function(2)・プログレッションアナライズ・アドリブ(4) Major、minor、Pentatonic、Harmonic minor含む						
【後期】 26～30回目	Tonic minor Scale上に構成されるコード(2)、Natural minor、Harmonic minor、Melodic minor ・Degree、Function(3)・プログレッションアナライズ・アドリブ(5) Major、minor、Pentatonic、Harmonic minor、Melodic minorを含む						
【後期】 31～35回目 (後期試験)	Tonic minor Scale上に構成されるコード(3)、Natural minor、Harmonic minor、Melodic minor ・Degree、Function(4)・プログレッションアナライズ・アドリブ(6)Major、minor、Pentatonic、Harmonic minor、Melodic minorを含む						
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)						
備考							

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	コード譜基礎		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	コード譜基礎	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	メジャーリリースや海外ツアーの実績を持つバンド活動を軸に、ライブサポートやレコーディングで実務経験を蓄積。 教則講師や機材メーカーのモニターも務め、実践力と応用力の指導を行う。					
授業概要						
プロの現場で良く使われる『コード譜』(マスター譜)の読み方の基礎を学び、そして実践を交えての譜面に慣れる授業。						
到達目標						
コード譜に対しての苦手意識を無くす。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	「譜面の基礎」 ・ト音記号、ヘ音記号 ・拍子の種類 ・音価の基礎 ・コード譜の書き方の基礎 ・4分音符、8分音符のリズム譜読み ・4分音符、8分音符のリズム譜書き					
【前期】 5～8回目	「リズム譜読みと演奏」 ・1～2小節の4分音符、8分音符のリズム譜を初見で演奏をする ・1～2小節の8分音符、16分音符のリズム譜を初見で演奏をする					
【前期】 9～12回目	「リズムの聴き取り、採譜」(リズムディクテーション) ・1～2小節の4分音符、8分音符のリズムを聴いて譜面に書いてみる ・1～2小節の8分音符、16分音符のリズムを聴いて譜面に書いてみる					
【前期】 13～16回目 (前期試験)	「3連、シャッフルについて & 譜面の記号についての基礎」 ・3連、シャッフル、ハネ感についての聴き取り、採譜、演奏 ・“D.S”、“coda”などの記号についての基礎					
【後期】 17～21回目	「名曲の譜面を実際にアンサンブルをして学ぶ①」 ・世界的名曲の譜面を見ながら2～3回聴いただけですぐに演奏してみる ・The Beatles ・Ben E King ・oasis・Cyndi Lauper					
【後期】 22～25回目	「名曲の譜面を実際にアンサンブルをして学ぶ②」 ・世界的名曲の譜面を見ながら2～3回聴いただけですぐに演奏してみる ・Norah Jones ・Carpenters ・Cream・Earth,Wind & Fire					
【後期】 26～30回目	「名曲の譜面を実際にアンサンブルをして学ぶ③」 ・世界的名曲の譜面を見ながら2～3回聴いただけですぐに演奏してみる ・Maroon5 ・Alicia keys ・Bob Marley・Stevie Wonder					
【後期】 31～35回目 (後期試験)	「セッション定番曲を実際にセッションをして学ぶ」 ・セッション定番曲の譜面を見ながら2～3回聴いただけですぐにセッションしてみる ・Bossa Nova ・Funk ・Jazz・Soul					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アーティスト実地演習Ⅰ		授業形態 / 必・選	演習	必修	
	学則上表記	アーティスト実地演習Ⅰ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。					
授業概要						
卒業後の進路活動について学ぶ。 それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。						
到達目標						
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	アーティスト特別セミナー					
【前期】 7～14回目	音楽業界スタッフによる講義。					
【前期】 15～20回目	各コース発表会					
【後期】 21～25回目	音楽業界スタッフによる講義。					
【後期】 26～30回目	各コース成果物提出					
【後期】 31～35回目	各コース発表会					
【後期】 36～40回目	コース別ファイナルイベント					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	分野別講座Ⅰ		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	分野別講座Ⅰ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	31回(62単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経験5年以上の各科目担当講師。現場での豊富な経験と技術への深い知見をもとに次世代の育成に取り組む。					
授業概要						
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。						
到達目標						
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～13回目	音楽業界基礎知識					
【後期】 14～16回目	音、電気、マイクスピーカーについて					
【後期】 17～29回目	音楽業界基礎知識					
【後期】 30～31回目	所得税と源泉徴収・確定申告					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						